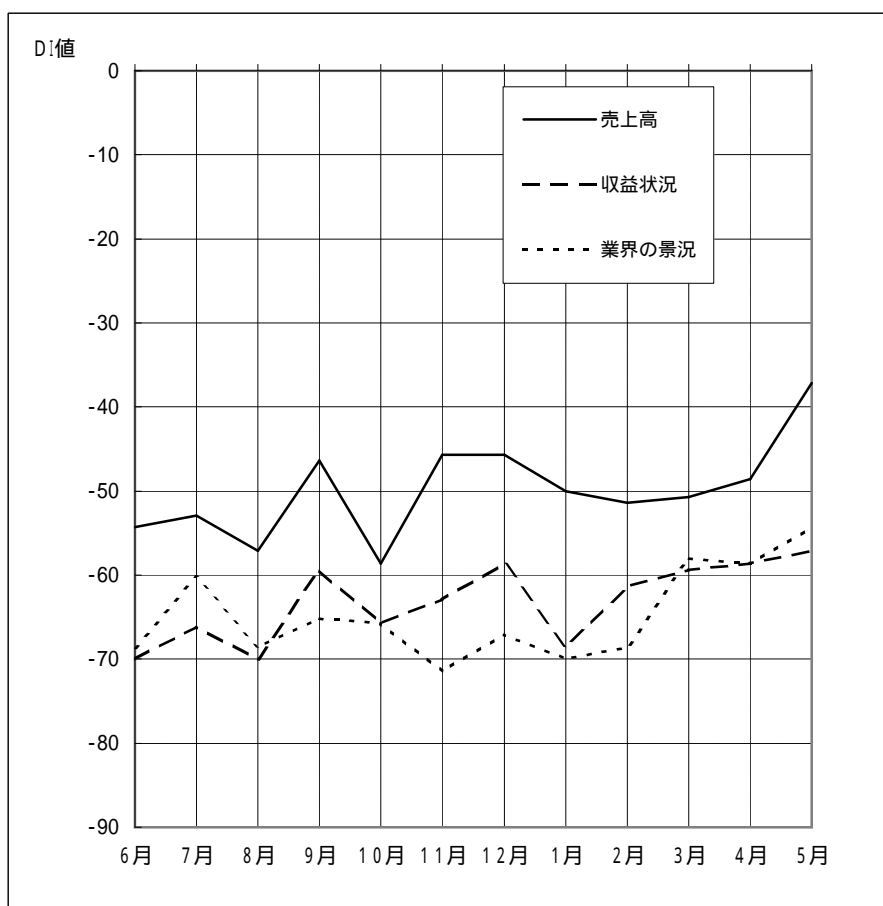


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 平成14年6月～平成15年5月

単位:ポイント



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
売上高	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1
収益状況	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1
業界の景況	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3

5月のDI値を見ると、3項目全てに改善がみられた。

「売上高」は、11.5ポイントの大幅な改善があり、平成13年1月以来の - 30%台に推移した。しかし「収益状況」は、デフレの影響が色濃く1.5%の小幅な改善であり3ヶ月間 - 50%台を継続中だが、「売上高」の伸び程影響されていない。「業界の景況」も、4.3%の改善があり、「収益状況」と同様、3ヶ月間 - 50%台を継続中。中小企業の景況は、全体的に緩やかな右肩上がり形で推移してきているが、景気の波に敏感に反応し一進一退を繰り返すため、息を抜けない厳しい状況である。

業種別に見ると、製造業で「食料品」「窯業・土石製品」「一般機器」で小幅な改善があったものの、「鉄鋼・金属」で若干悪化したために前月同様の割合である。また、非製造業では、「卸売業」で全て悪化となったが、「サービス業」「運輸業」で改善があったために非製造業では若干改善がみられた。総体的に製造業よりも非製造業のほうが景況感が悪い傾向にある。

組合の特記事項からは、「窯業・土石製品」や「鉄鋼・金属」の製造業の一部で景気の持ち直しや現状打破に奮闘する組合員の努力など、活発感に溢れる報告があった。しかし、全体的には需要減少による受注減、売上減、低価格競争と原料価格の高騰などのデフレの影響に悪戦苦闘し、SARSによる今後の影響が拍車をかけ、先行きの不安感を募らせる報告が多くみられた。非製造業では、製造業よりもデフレの影響が色濃く、需要減少と重なって疲労困憊している厳しい状況である。総体的には、製造業・非製造業の業種を問わずデフレ経済の進行が経営を圧迫しており、相変わらず厳しい環境下であることが窺える。